

## 新しい緑化植物のコンテナ生産技術の開発

### 【研究概要】

近年、公共工事が減る一方、民間企業による都市の再開発やリノベーションによる緑化は一定の需要があり、枝葉のボリュームに優れるなど高品質な大型コンテナ苗が求められているため、効率的な栽培管理方法を開発する。イヌツゲ「ヒレリー」、ヒメシャライバイ、サワラ「フィリフェラオーレア」について、適切な液肥施用時期を調査したところ、樹種によって最適な時期は異なるが、6～8月の施用で成長促進効果が高かった。さらに、LED補光による成長への影響を調査したが、明確な促進効果はみられず、生産現場での利用は現実的では無いと考えられた。オヤマシモツケ外5樹種について、直径18cm、24cm、30cmの3つのサイズのコンテナで露地栽培を行ったところ、定植後1年目だったこともあり生育に差がほとんど現れず、継続的な調査が必要であると考えられた。